

# ライト&ライブ

2018

11

No.672

特集  
ユニークなアイデアから始まる  
**木の魅力再発見!**

ジャンピングふるさと(高知県高知市)  
高知家子ども食堂

「一緒に食べる・一緒に笑う」  
高知県内に広がる「子ども食堂」

ひとことジャーナル  
多忙な年末もこれで楽ちん!

冬もの家事ラク家電

プロムナード

本当のところはどつなの?  
なるほど! オール電化。



温かみを感じる手触り、リラックスできる芳醇な香り。木は、人々の暮らしに安らぎを与える。日本人は古来より木の良さを見つめ、積極的に暮らしに取り入れてきた。

今回は、木の魅力をユニークなアイデアで伝える、四国の二つの取り組みを紹介する。一つは、愛媛県松山市の材木店「大五木材」。国内外の多様な材木を使ったオリジナル商品や、独自に「木の解説書」を制作して木の楽しみ方を伝えている。もう一つは、香川県三豊市で、家の大黒柱を伐採するツアーを行う「讃岐の舎づくり倶楽部」。林業の現場を一般の人たちが体験することで、県産ヒノキの魅力を広めている。この二つの企業・団体を訪ね背景や思いを伺った。

# 木の魅力 再発見！

特集  
ユニークな  
アイデアから始まる



り株を見つめながら、菅さんはほほ笑む。「製材すると、美しい肌目が出るんです。熊野や吉野といった有名なヒノキの産地にも引けを取らないほど美しい森です」と菅さん。この場所に一般の方を招き入れ、香川県産ヒノキのことを知ってもらいたいイベントを開きたい。そんな思いから伐採ツアーを企画した。

ツアー当日は、豊田さんがこれから伐採するヒノキや林業などについて説明をした後、枝打ちなどの作業を体験。その後、伐採の様子を参加者全員で見守る。

高さ20メートル以上に育ったヒノキが倒れる瞬間、地面が揺れる



「間伐」や「枝打ち」を終えた人工林は、光が差し込み周囲の空気が変わる

昨年、菅さんが長年願ってきた100%県産材の住宅も実現した。施主の佐藤直人さんも、幼いお子さん2人を伴い、家族で伐採ツアーに参加した。木が前面に出た自然素材の家に興味があったのは奥様で、佐藤さん自身はもともと、コンクリート建築が好みだった。しかし、「倶楽部」のホームページで紹介していた伐採ツアーで、木について熱く語る菅さんの思いにいつの間にか惹き付けられていった。

佐藤さん宅のリビングは芳醇な

### 「木」本来の魅力に気付く

衝撃と風圧を感じる。「毎回、伐採ツアーの現場は、拍手と歓声に包まれます。目の前で伐採された木を使えば、家への愛着も、より一層深まるでしょう」と菅さん。活動を始めてから17年間で、60本余りのヒノキが大黒柱になった。直径30センチのヒノキからは大黒柱を含めて4、5本の柱ができる。最近の住宅では柱を隠す構法が増えていますが、菅さんはヒノキの美しさや伐採ツアーの記憶にいつでも触れることができるようにと、大黒柱を含む何本かの柱を、あえて見えるように設計するという。



ヒノキの上部は、「木登り柱」として活用。子どもたちにも人気だ



「香組」では県産ヒノキのドアも製作している

ヒノキの香りが漂い、柱が美しい肌目を見せていた。「もともと好きだった直線の構造美も木で表現できるんだと知りました。香りや見た目から、家の中にいながら自然を感じる事ができます」と、家の魅力を語る。さらに、「伐採ツアーは特別な体験で、子どもたちの記憶にも残りました。目の前で伐採された木が柱となって家を支えていることを考えると、私たち家族にとって、とても思い入れのある家になりました」と佐藤さん。県産ヒノキへの関心を高める伐採ツアー。菅さんたちの取り組みは、確実に広まっている。



お問い合わせ  
讃岐の舎づくり倶楽部  
香川県三豊市仁尾町仁尾幸15-1  
☎0875-82-2988  
http://www.sanuki-ie.com/  
大黒柱伐採ツアーは昼食代、保険料込みで1人1,000円(税込)



直線の構造が美しい佐藤さん宅のリビング



伐採ツアーに参加し、オール県産材の住宅を建てた佐藤さん家族



## 近くの山の木の 伐採から始まる家づくり

讃岐の舎づくり倶楽部  
— 香川県三豊市 —

伐採ツアーを主催した豊田均さん(前列中央左)、菅徹夫さん(豊田さん右後)と、ツアーに参加した人たち

### 県産木材に光を当てる

四国4県の中で、香川県は県産材の供給量が最も少ない。戦後、一斉に植林した松が、昭和40年代後半から松くい虫により壊滅的な被害を受けたことが一因だった。近年、松の後に植林したヒノキがようやく建築用材に適した大きさに成長してきた。香川県では、全国と比較して年間降雨量が少ないため、木がゆっくと成長するので目が詰まって強度があり、良質なヒノキが育っているという。

県産ヒノキを活用し、その良さを広めているのが、香川県三豊市で建築会社「香組」の代表を務める菅徹夫さんだ。平成14年、民間グループ「讃岐の舎づくり倶楽部(以下・倶楽部)」を立ち上げ、地元的林業家と協力し、家を建てる施主と近くの人工林に入って家の「大黒柱」を一緒に伐採するツアーを実施している。ツアーは一般の方も参加が可能で、リピーターがいるほど好評のイベントだ。

菅さんが倶楽部を立ち上げたのは、「近くの山の木で家をつくる運動」(NPO法人「緑の列島ネットワーク」主宰)の活動に賛同したことと端を発する。安価な外国産材ばかりを使う家づくりに疑

### 大黒柱を自分たちの手で

豊田さんは、香川県まんのう町で約50万平方メートル(甲子園球場の約13倍)の森林(人工林)を管理する。約50年間、人工林を保全するため生育の妨げになる木を間引く「間伐」と、節ができないための「枝打ち」を行い、質の高いヒノキを育ててきた。

豊田さんの人工林は樹木の間から光が入り、大木の足元で育つ低木も緑色に輝く。現場にあった切



豊田さん(右)の人工林で、ヒノキについて語る菅さん(左)